

飲水思源

町長 松岡市郎

地方創生とコミュニティー活動

地方が元気を回復するように創造性を発揮しながら先駆的な事業に取り組みなさい、と国は奨励している。今まで全力疾走しているので、さらに力を出せと言われてもなかなか出ないというのが実情である。新たに知力を出して白紙に何かを描く、というような先駆的な取り組みは難しいが、地域住民がさらなる主体的な活動をするということは可能である。地域力（地方）の発揮は地方創生の基本となるもので、未来に大きな夢と希望を持つことができる。これは地方自治の基本でもある。ゆっくりと着実に一步一步進めていくことが大切である。

町がいっそう元気になっていくには、住民一人ひとり、そして家族、家族の集合体である地域が元気にならなければ町全体としての元気も生まれてこない。今年4月からは今までの行政区が廃止になって新たに5つの自治振興区としてスタートする。それぞれの振興区では個性と創造性ある伝統文化を守って新たなものが生まれて来ているのではないかと思う。

一つの例ではあるが、東川第一小学校では、児童、先生、父兄、そして地域の人々と留学生が参加し、今年も一小巻きづくりが行われた。今までの長さを上回る過去5年間で最長の太巻きが出来上がった。

地域力を強く感じる。仕事を休んで準備をする父兄、大豆を栽培して豆腐を作る校長先生。太巻きの具、かんぴょうづくりにチャレンジした児童の栽培・観察記の発表も行われ、素晴らしいものを教えてもらった。地域の人々の一体感が伝わり、最高の食体験、食育授業だと感じた。高齢者サロンという名で地域の人々と高齢者、そして留学生の交流も行われている。地域の人々がおしることを振る舞い、高齢者と留学生が会話を楽しんでいる。町内の自治振興区ではそれぞれ特長のある活動が起きて来ている。これが地方創生の起点ではないかと思う。地域の人々が集い、共鳴の中から生まれ支え合う共助社会が、地域を、町を、豊かなものにしていく。

死んでいない者 (一般書)

滝口悠生 / 著 文芸春秋 / 刊



第154回芥川賞受賞作。秋のある日、大往生を遂げた男の通夜に集ったのは、子ども、孫、ひ孫など30人あまりの親類。一人ひとりが死に思いを馳せ、あるいは不在の人を思い、家族の記憶が緩やかに広がっていく。それぞれの記憶と時間の断片が重なり合って永遠の時間が立ち上がる。奇跡の一夜の記録を豊かに描き出した。

永遠の0 (DVD)

ゼロ 東宝株式会社



健太郎は、祖母の葬儀の日に血縁上の祖父が別にいることを知らされる。実祖父、宮部久蔵は太平洋戦争(第二次世界大戦)で零戦パイロットとして戦い戦死していた。健太郎は久蔵のことを調べようと戦友のもとを訪ね歩く。しかし、そこで耳にした人物評は、「海軍一の臆病者」など酷いものだった。家族を愛し「生きて帰る」ことに執着した臆病者は、何を願って飛んだのか…。

貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



はるのおとがきこえるよ (絵本)

マリオン・デーン・バウアー / 文 ジョン・シェリー / 絵
ブロンズ新社 / 刊



冬の終わりのある夜、不思議な音が聞こえてくる。「コッソ、コッソ、コッソ」「ガリガリ、バリバリ」「パリン、パクン、パン」…。外に出てみると、くまくんがいた。「もうすぐくるよお。いっしょにいこう」と言うくまくんと手をつないで、どんどん冬の森のおくへ歩いていくと、そこで見つけたのは春がいっぱいつまった不思議なものでした。